

小森つぐみ(コモリ ツグミ)

平成20年度1次隊 村落開発普及員 ニジェール

プロフィール

学生時代に東南アジア諸国に対する日本のODAについて学び、4回生で参加したJICA大阪主催「ODA視察ツアー「Nフィリピン」にて協力隊を目指すようになる。現在は村落開発普及員として農業開発省アギエ県農業局に所属。女性グループの生活改善や収入向上の支援を行う活動をしている。



薪拾いの手伝いをする少女達。ニジェールでは幼い子供達も貴重な労働力となっている。

ニジェールの気候や文化の紹介

西アフリカに位置するニジェールは、面積が日本の約3倍でその3分の2はサハラ砂漠に占められている。サヘル型気候で4月が最も暑く、かつて最高気温62度を記録したことも。公用語はフランス語であるが、ハウサ族、ザルマ族、トアレグ族、プール族などそれぞれの部族語も使われている。国民の大半はイスラム教徒で、1日5回のお祈りの時間には町中にコーランの音が響き渡る。近年は人口増加・砂漠化などに伴い慢性的な食糧不足が続いている。特に任地であるアギエ県の周辺にあるような小さな村落では、大きな町からの物資や情報が届きにくくその状況は厳しさを増している。

活動や生活について

「今度はハウサ語ができる人と一緒に来なさい！」巡回先の女性グループの集まりに参加した時、そうやって女性達が怒ってしまったことがある。私の活動目標は地方の小さな村落における女性の労働負担を軽減させることである。幼い子供を背負いながら1日中働いてばかりで休む時間なんてほとんどない、そんな女性達が「元気」に暮らしていくことがその村の大きな活性化につながると考えているからである。しかし自分がやりたいと思っていることと、今実際にできることとのギャップは大きい。特に自分が「どういう立場」でここに来て今後「どういったこと」をしていきたいのかを現地語であるハウサ語でうまく説明することができないのは、自分にとっても彼女達にとっても非常にもどかしいことである。

実際の活動を開始して数ヶ月。今は任地であるアギエ周辺の村々をバイクで巡回し、女性達の生活と労働をよく観察しているところである。今後は自分も村に泊まり込み、彼女達と同じ



ニジェールのお祭り「タムタム」。13歳の少女と一緒にダンス。

スケジュールで同じ仕事をする必要だと考えている。こうして女性達と一緒に時間を重ねることによって、具体的にどの部分をどう改善すれば労働負担を軽減させることができるかが見えてくるはずである。そして同時に少しずつ彼女達との間にある心と言葉の壁を無くしていきたいと考えている。

活動以外の時間は、専ら町の人達とおしゃべりとお茶。彼らと同じ物を食べ同じ場を共有する意味は非常に大きく、そこから多くを学ぶことができた。その1つが、彼らが「お互いに助け合う」という大切な心を持っているということ。国民の大多数がイスラム教徒であるニジェール、その教えの中で貧しい人々への施しは徳を積むことだとされている。しかし私にはそれ以上にこの国の過酷な環境や貧困の問題が「お互いに助け合う」という精神を生んでいるように見える。貧しい人や障害を持って働けない人に少しのお金を渡す、お腹の空いている子供達に自分の食べ物を少し残して与える、そういった行為が日常的にごく自然に行われている。私の様に肌の色や宗教が異なる外国人に対しても彼らの態度は変わらない。きっと誰もが私が金銭的に豊かな国から来たことを理解しているはずである。それでも「もっと食なさい!」と言って自分達の食事を分けてくれたり、バイクでトラブルがあれば何の見返りも求めず手を貸してくれるのだ。私は人々のこの姿勢を心から美しいと感じる。

町で生活をしていると、中には全く約束を守らない人がいたり、近所の方が家にまで来てお金やプレゼントを要求してくるなど、腹の立つこともしばしば。しかし最終的に今自分がここで安全に楽しく暮らせるのは、間違いなく多くの人々に支えられ助けられているからである。



足踏み式ポンプでの水汲み作業。



小さな町の中にある屋外の学校。子供達はここで主にコーランなどのイスラム教の教えを学んでいる。